平成２２年度研究成果報告書≪教育課程≫

学校名	盛岡市立北厨川小学校

校 長 名：熊　谷　　稔

所 在 地：岩手県盛岡市厨川３丁目５番１号

電話番号：019-641-0133

新学習指導要領の趣旨を具体化するための指導方法の工夫改善に関する研究	
研究対象教科等	体育

≪研究主題≫

基礎・基本を活かし，分かる・できる児童を育てるための指導の在り方
～課題解決的な学習過程の開発を通して～

【研究の要点】

器械運動の学習内容を確実に身に付けるために，単元計画の工夫と改善を行った。基礎・基本を活かすために,単元の前半には児童全員で共通に学習する技を設定し，学習課題としてその技のポイントを見付けることを学習内容の中心とした。単元の後半には，自分で選択した基本的な技や発展技や仲間と動きを合わせることに取り組むこととした。

このことで，単元の前半の学習内容を活かして，教え合ったり練習の場を工夫したりするようになった。思考・判断の場面が多くなり，結果的に基本的な動きや技を確実に身に付けるためにも有効であった。また，グループで関わり合いながら学習することで，運動することの楽しさや共に学ぶことの喜びを感じることができた。

また，単元を通して器械運動に必要な動きづくりを単位時間の導入に取り入れたことにより，基本的な技や基礎となる動きを繰り返し習熟することになり，基本的な技だけでなく発展技までできる児童が多くなった。

保健領域では，児童が課題解決をし易い学習形態を取り，習得した知識を活用したり，思考・判断したりし易い板書を工夫することができた。

毎時間の導入に器械運動に必要な動きづくりを取り入れた。このことにより，どの児童も基礎的な動きや技を確実に身に付けることができたと考えている。

Ⅰ　研究指定校の概要

１　学校・地域の特色及び実態

本校は平成 15 年度より体育科の研究を推進してきている。平成 17 年度には，学校公開を行い，研究成果を発表した。平成 20 年度には全国学校体育研究大会岩手大会にて 4 授業を公開し研究発表を行った。

児童の実態としては，運動に積極的に取り組む児童とそうでない児童の二極化傾向がみられる。

２　学校の概要（平成 22 年 4 月 5 日現在）

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特別支援学級	計
学級数	3	3	2	3	2	3	0	16
児童数	79	72	58	92	71	86	0	458

教職員数　36 名

Ⅱ　研究の内容及び成果等

１　研究主題等

（1）研究主題

基礎・基本を活かし，分かる・できる児童を育てるための指導の在り方
～課題解決的な学習過程の開発を通して～

（2）研究主題設定の理由

本校では，教材及び単元計画を新たに作成し，器械運動の技の系統性を踏まえた動きづくりを１単位時間の中に設定するとともに，児童が運動の知識や技のポイントなどを見つけたり学んだりする授業を展開している。また，それらを活用できるような学習過程を工夫することで，基礎的・基本的な技能や知識，生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を身に付けた児童が育成できるのではないかと考え，前述の研究主題を定め，指導の工夫・改善の研究に取り組むこととする。

（3）取組体制

①研究運営委員会（決定機関）
②研究推進委員会（具体的な案を練り合う）
③全体研究会（共通理解を図る）
④部会［低・中・高学年］（授業提案）

（4）２年間の主な取組

平成21年度	・校内研究会（マットを使った運動遊び） 助言者　山下芳男岩手大学教授 ・体育授業研究会［県内への公開］（マット運動） 助言者　高橋健夫日本体育大学大学院教授 ・体育授業研究会 ［文部科学省教科調査官学校訪問］ （マット運動・保健） 助言者　白旗和也・森良一両教科調査官 ・校内実技研修会（マット運動）

平成22年度	・校内研究会（鉄棒を使った運動遊び） 助言者　山下芳男岩手大学教授 ・校内実技研修会（マット運動・跳び箱運動） ・体育授業研究会 ［文部科学省教科調査官学校訪問］ （マット運動・跳び箱運動・保健） 助言者　白旗和也・森良一両教科調査官 ・体育授業研究会［県内外への公開］（跳び箱運動） 助言者　高橋健夫日本体育大学大学院教授

2　研究内容及び具体的な研究活動

(1) 研究の重点

児童に運動領域，保健領域の学習内容が確実に身に付き，分かる・できる児童を育成する体育指導の在り方を追究するため，次の 4 点を重点として取り組んだ。

① 器械運動の学習内容を確実に身に付けるための単元計画の工夫と改善

② 学んだことや身に付けた動きなどを活かして課題を解決していく学習形態の工夫と改善

③ 基礎的・基本的な動きを確実に身に付けるための運動の特性に即した活動の取り入れ方

④ 保健領域における確実な知識の習得・活用のための効果的な指導の在り方

また，本校の考える「分かる」児童と「できる」児童の捉えは，次のとおりである。

「分かる」児童の姿

・ 運動のポイントを見つけようとする。
・ 運動のポイントを知っている。
・ 見つけたポイントを意識しながら練習する。
・ ポイントをもとに，教え合ったりアドバイスをしたり，補助したりしながら学習を進める。

「できる」児童の姿

［低学年］

・ 器械運動につながる，転がったり腕で支えたりするような基本的な動きができる。
・ 器械運動の基礎となる，逆さになる動きや腕支持，順次接地などの動きができる。

「できる」児童の姿

［中・高学年］

・ 基本的な技ができる。
・ よりよく，安定して，なめらかにできる。
・ 発展技ができる。
・ 技を組み合わせたり演技したりすることができる。

(2) 具体的な取組

① 器械運動の学習内容を確実に身に付けるための単元計画の工夫と改善

(ア) 共通の学習内容を学ぶ基本の学習

単元計画の前半には，学習指導要領に例示されている基本的な技を身に付けるための動きづくりを多く取り入れるようにした。共通のポイントについて話し合い，教え合う中で児童相互が考え，深く関わると考え，全体で共通の課題を解決する学習を設定するようにした。

(イ) ２つの学年のまとまりを見通した単元計画の作成

前半の学年では，学習指導要領に例示されている基本的な技を全体で学習する場面を多く設定するようにし，後半の学年では，それらを繰り返したり，組み合わせたりするような場面を多く設定した。また，各学年の単元計画の中でも，前半は基本的な技のポイントを共通課題として学習し，後半には挑戦したい技に取り組んだり，集団演技などできる技を質的に高めたりするための場面を設定するようにした。

② 学んだことや身に付けた動きなどを活かして課題を解決していく学習形態の工夫と改善

(ア) 自己の課題解決を図るための教具の工夫

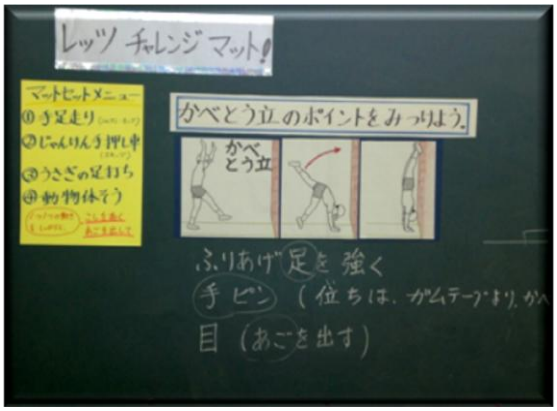
児童が学習した運動のポイントなどを，授業の中で自分や友だちの動きと比較しながら確認できるように，様々な教具を取り入れた。手や足の接地の位置を確認したり意識したりするための手型・足型シートや倒立の際の視

点を意識するための目印シートなどである。6年生の実践では，振り上げ足を意識するために，ゴム紐を利用し脚が上がっているかどうかを確認しながら学習に取り組むようにした。

また，自分や友だちの運動場面の映像を使って，児童相互が技のポイントやできばえを確認しながら学習を進める工夫をした。

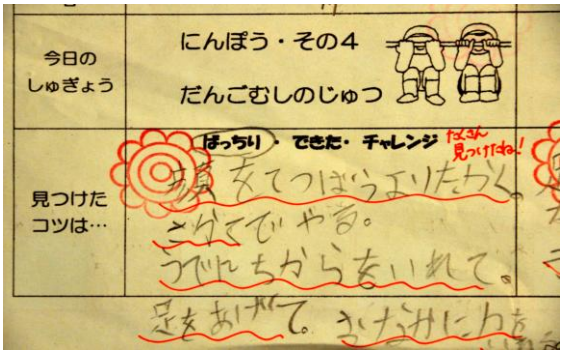
(イ) 児童の理解を深める板書やノートの工夫

児童が単位時間の流れや運動のポイントを確認しながら学習を進められるように，図や短い言葉で学習内容を板書にまとめていくようにした。



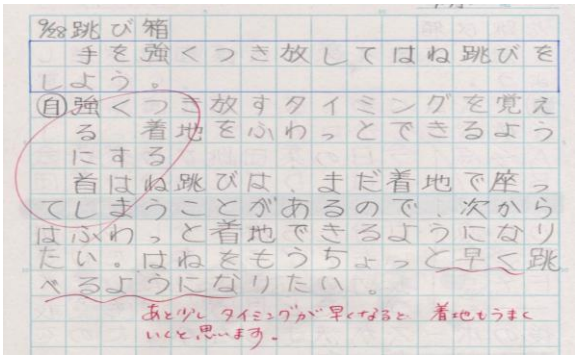
板書の例

また，低・中学年は学習カード，高学年は体育ノートを中心に取り入れて実践を行った。



児童の学習カード記録

児童は，授業の感想だけでなく，分かったことや運動のポイントなどを記録していく。学習カードや体育ノートの活用により，「分かる」ことと「できる」ことが相互に関係し，どちらも大切であることを認識するようになってきた。



児童の体育ノート記録

③ 基礎的・基本的な動きを確実に身に付けるための運動の特性に即した活動の取り入れ方

（ア） 基礎的・基本的な動きを身に付けるための運動を取り入れた授業の展開

児童が器械運動につながる基礎的・基本的な動きを身に付けるために，すべての学年の学習において，発達の段階に応じた基本的な動きづくりのためのセットメニューを設定し，単元を通して取り組むようにした。具体的には，腕で支える動き，逆さになる動き，様々な方向に転がる動き，順次接触の技能を身に付けさせるための動きなどである。それらを技の系統性を意識しながら，共通課題として扱う基本技につながるように段階を踏んで構成した。

（イ） 児童の意欲を高めるための工夫

基本的な動きづくりのためのセットメニューの設定の際には，意欲的に取り組めるような工夫も試みた。

５年生の実践では，ジャンケンすごろくで遊びの要素を取り入れた。ジャンケンで勝ったら，動物歩きや川跳びなど，学習につながる動きで次のステーションに進む。負けたときにも別の種類の動きを行って，同じ場所に戻り，別の相手と再びジャンケンをする。楽しみながら進んで運動に取り組めるように工夫をした。

また，低学年の実践では，ゆりかごやブリッジ，背倒立などを動物の動きに例えて組み合わせた動物体操を音楽に合わせて行った。

④　保健領域における確実な知識の習得・活用のための効果的な指導の在り方

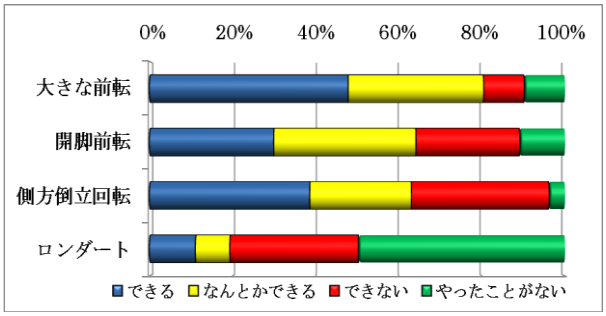
確実な知識の習得を図るために身近な教材を開発した。また，課題解決的な学習を構成するために，ブレインストーミングなどを取り入れ学習形態を工夫したり，児童の思考・判断を促すよう板書を工夫したりした。さらに，学習した内容を自分で評価し，自らの生活を振り返ることができるような学習プリントを作成して活用した。

(3) 考察

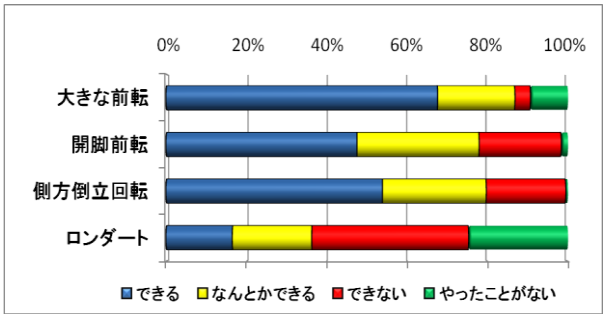
①　器械運動の学習内容を確実に身に付けるための単元計画の工夫と改善

単元計画の前半に基本的な技を身に付けるための動きづくりを多く取り入れるようにしたことにより，どの児童も基礎的・基本的な動きを身に付けることができた。また，全体で共通の課題を解決する学習を設定したことにより，共通のポイントについて話し合い，教え合う中で児童相互が考え，深く関わる姿がおおくみられるようになった。

児童の**技に対する意識調査**からは，技ができるようになったことによる肯定的な変容が明らかになった。



技に対する意識調査結果の抜粋（事前）



技に対する意識調査結果の抜粋（事後）

②　学んだことや身に付けた動きなどを活かして課題を解決していく学習形態の工夫と改善

様々な教具を取り入れて，児童が学習した運動のポイントなどを自分や友だちの動きと比較しながら確認できるようにしたことにより，お互いに関わり合いながら学習を進める姿が見られた。さらに学習形態について，研究を進めていきたい。

③　基礎的・基本的な動きを確実に身に付けるための運動の特性に即した活動の取り入れ方

共通課題として扱う基本技につながるように基礎的・基本的な動きについて，段階を踏んで構成したセットメニューを設定し，単元を通して取り組むようにしたことにより，多くの児童が基本技を「できる」ようになった。

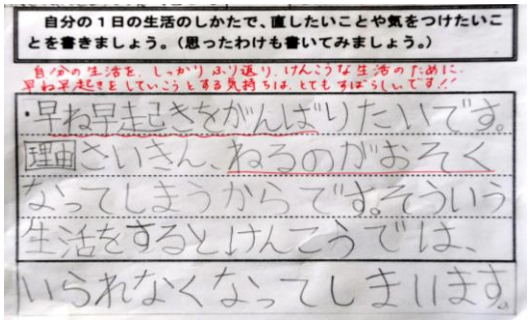
また，遊びの要素を取り入れたり，音楽に合わせて動物体操を行ったり，楽しみながら運動に取り組めるように工夫をしたことにより，どの児童も意欲的に取り組むことができた。

④　保健領域における確実な知識の習得・活用のための効果的な指導の在り方

導入段階は，発達の段階を考慮して身近でわかり易い言葉で授業を展開したことで，健康について学習意欲をもつことができた。

また，学習につながるような導入を工夫することで単位時間の見通しをもつことができた。学習プリントも自分の生活に戻って書き入れる内容にすることで，健康についての関心を高めることができたと考えられる。

板書の例



児童の学習プリント記録

３　研究の成果と課題

≪成果≫

① 継続的に練習に取り組める単元計画の工夫･改善により，児童が確実に技能を身に付けることができた。

② 共通の学習課題を設定し，お互いに見合ったり，教え合ったりする学習形態をとったことにより，必然的にグループで関わり合いながら学習を進め，課題を解決していく姿が見られた。

また，課題を解決する過程で話し合ったり確認したりするときに身に付けた学習内容を活かすことができるようになった。

③ 準備運動や本時の学習内容に系統性，運動の類似性を意識した動きづくりの運動をセットメニューとして設定したことは，学習内容を確実に身に付けることに大きな成果があった。

④ 導入段階において，身近で分かり易い言葉で授業を展開したことにより，健康について学習意欲をもつことができた。また，児童が課題解決をし易い学習形態を取り，習得した知識を活用したり，思考・判断したりし易い板書を工夫することができた。

≪課題≫

① 学んだことや身に付けた動きを活かして，更に高める課題を見つけていく指導の在り方の追究

② 体育科全領域において，課題解決を図り思考力・判断力・表現力を高める授業の在り方の追究

４　国立教育研究所教育課程協議会質疑応答より

(1)　学び合いと運動量について

思考・判断を中心にした課題解決的な学習の授業では，運動量は減ることが多いが，技能だけではなく，思考・判断や態度についても指導と評価を行わなければならない。

そこで，単元の指導と評価の計画を立て，思考・判断を伴う学習活動を中心とする時間があってもよい。

ただし，思考・判断が学習内容の中心であったとしても，ある程度以上の運動量の確保についてはやはり配慮しなければならない。

(2) 習得・活用について

２学年単位での年間指導計画を考える際には，前半は習得，後半は活用を意識した指導計画を作成することも考えられる。ただし，単元計画のレベルでも前半は習得，後半は活用を中心とした計画を立てたり，単位時間ごとに，習得と活用を意識した場面を設定したりする計画を立てることが考えられる。なお，習得と活用は，順序性のあるものではなく，また，明確に分かれるものでもない。

習得の場面では教師主導で指導する必要もあるが，単元を通しての指導の中ではそればかりではなく，課題解決的な学習で児童が主体的に課題を解決していく指導も必要である。

(3)　思考力・判断力・表現力の育成について

思考力・判断力・表現力の育成には，学び合い，教え合いは非常に有効である。ただし，時間だけを設定すればよいのではなく，話し合うのに必要な情報や場面設定が必要である。

各教科における言語活動は，各教科の内容を充実させるためのものであり，言語活動を充実させるための活動にならないように留意する必要がある。

５　終わりに

この研究を進めるうちに，ベテランの本校職員が「私，初めて跳び箱で学級の子を全員跳ばせることができたの。」と笑顔で話していたこと。

来年度の研究内容を決めるアンケートに，全員一致で「体育をみんなで研究していきたい。」と回答があったこと。

このことも，この研究の大きな成果と言えるかもしれない。

≪単元計画の例［マット運動］　６年生≫　（２つの学年のまとまりとして）

（１）基本的な技を全体で学習する場面を多く設定した５年生の単元計画（８時間扱い）

<table>
<tr><td>時間</td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td><td>6</td><td>7</td><td>8</td></tr>
<tr><td>5</td><td rowspan="4">オリエンテーション
・学習の進め方
・学習の約束
（服装・用具の準備・後始末・きまり）
・場づくりの説明
・準備運動の仕方
（セットメニュー）
・ふりかえりの仕方</td><td colspan="7">用具の準備・あいさつ
○準備運動のマットセットメニュー（①バッタ跳び,②手押し車,③うさぎの足打ち,④川跳び,⑤逆さだんご虫）</td></tr>
<tr><td>15</td><td colspan="7" rowspan="3">めあての確認
（１）基本的な回転系の技が安定してできるようにする。
（２）基本的な倒立系の技が安定してできるようにする。
（３）自分に合った回転系・倒立系の技にバランスやジャンプを加えて組み合わせて運動する。</td></tr>
<tr><td>25</td></tr>
<tr><td>35</td></tr>
<tr><td>45</td><td colspan="7">後片付け・学習のふりかえり・あいさつ</td></tr>
</table>

（２）繰り返したり，組み合わせたりするような場面を多く設定した６年生の単元計画（８時間扱い）

<table>
<tr><td>時間</td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5（本時）</td><td>6</td><td>7</td><td>8</td></tr>
<tr><td>5</td><td rowspan="5">オリエンテーション
・学習の進め方
・学習の約束
（服装・用具の準備・後始末・きまり）
・場づくりの説明
・準備運動の仕方
（セットメニュー）
・ふりかえりの仕方</td><td colspan="7">用具の準備・あいさつ
○準備運動のマットセットメニュー（①バッタ跳び,②手押し車,③うさぎの足打ち,④川跳び,⑤逆さだんご虫）</td></tr>
<tr><td>15</td><td colspan="6" rowspan="3">めあての確認
（１）自己の課題の解決を目指して，基本的な回転系の技で，上手に回転するポイントを見付ける活動をする。
（２）自己の課題の解決を目指して，基本的な倒立系の技で，上手に倒立するポイントを見付ける活動をする。
（３）回転系・倒立系の技にバランスやジャンプを加えて組み合わせて運動する。</td><td rowspan="3">集団マット発表会</td></tr>
<tr><td>25</td></tr>
<tr><td>35</td><td colspan="2">集団マット</td></tr>
<tr><td>45</td><td colspan="7">後片付け・学習のふりかえり・あいさつ</td></tr>
</table>

≪学習内容を活用できる教具と学習資料提示の工夫≫

運動ポイントをしっかり身に付けるための教具と学習資料提示機器

◇マット運動

側方倒立回転評価教具

【うちわを利用した評価教具】

うちわの骨に沿って切れ目を入れ，その隙間から覗いて倒立時に体が真っ直ぐになっているか評価する。

◇マット運動

側方倒立回転補助具

【平ゴムを利用した補助具】

両手を挙げた高さに平ゴムを張り，その高さに足が届くよう意識することで倒立時に体が真っ直ぐになる。

◇マット運動でパソコン使用

学習資料提示機器

【パソコンを利用した学習資料】

試技の直前や直後によい動きの映像を見て，相互評価や自己評価の判断材料とする。

≪指導と評価の計画［マット運動］　６年生　≫

時間	学習過程	学習活動における具体の評価規準（B：概ね満足できる状況） A：十分満足と判断できる状況		
		関心・意欲・態度	思考・判断	技能
1	オリエンテーション ①学習の進め方 ②学習の約束（服装・用具の準備・後始末・きまり） ③場づくりの説明 ④準備運動の仕方（セットメニュー） ⑤学習のふりかえりの仕方	・セットメニューやマット運動に進んで取り組もうとする。 A：常に ［行動観察］ ［体育ノート］		
2	①挨拶・用具準備 ②セットメニュー ③めあての確認 ④回転系の技をする（大きな前転等） ⑤倒立系の技をする（補助倒立等） ⑥組み合わせの技をする ⑦学習のふりかえりをする ⑧後始末・挨拶	・器械・器具の準備や片付けで，分担された役割を果たそうとしている。 A：常に ［行動観察］ ［体育ノート］	・大きな前転や開脚前転等の課題解決の仕方を知り，自分の課題に応じた練習の場や段階を選んでいる。 A：適切に ［行動観察］ ［体育ノート］	
3	①～③は第2時と同じ ④回転系の技をする（大きな前転等） ⑤倒立系の技をする（頭倒立等） ⑥組み合わせの技をする ⑦⑧は第2時と同じ（以下省略）		・回転系の技や倒立系の技をつなぐ方法を知り，自分の力に合った技を組み合わせている。 A：適切に　［行動観察］［体育ノート］	
4	①～③は第2時と同じ ④回転系の技をする（大きな前転等） ⑤倒立系の技をする（ブリッジ等） ⑥組み合わせの技をする			・大きな前転やブリッジに取り組み，自己の能力に適した技が安定してできる。 A：スムーズに　［行動観察］
5	①～③は第2時と同じ ④組み合わせの技をする ⑤組み合わせの技を発表する ⑥学習のふりかえりをする	・場の危険物を取り除いたり，器械・器具の安全に気を配ったりしようとしている。A：常に ［行動観察］［体育ノート］	・回転系の技や倒立系の技の課題解決の仕方を知り，自分の課題に応じた練習の場や段階を選んでいる。 A：適切に［行動観察］［体育ノート］	
6	①～③は第2時と同じ ④回転系の技をする（開脚後転等） ⑤倒立系の技をする（側方倒立回転等） ⑥集団マットをする		・回転系の技や倒立系の技をつなぐ方法を知り，自分の力に合った技を組み合わせている。A：適切に　［行動観察］［体育ノート］	
7	①～③は第2時と同じ ④回転系の技をする（開脚後転等） ⑤倒立系の技をする（側方倒立回転等） ⑥集団マットをする	・約束を守り，友達と助け合って技の練習をしようとしている。 A：常に ［行動観察］［体育ノート］		・基本的な回転系の技や倒立系の技が安定してできる。 A：スムーズに ［行動観察］
8	①～③は第2時と同じ ④集団マットの練習をする ⑤集団マット発表会をする ⑥学習のふりかえり・後始末・挨拶		・回転系の技や倒立系の技をつなぐ方法を知り，自分の力に合った技を組み合わせている。A：適切に　［行動観察］［体育ノート］	・回転系の技や倒立系の技でできるようになった技を繰り返したり組み合わせたりすることができる。 A：スムーズに［行動観察］

努力を要する状況に対する支援の手立て	・グループで教え合いをする。 ・励ましたり，賞賛したりしながら学習に取り組む。	・つまずきの段階にフィードバックし，スモールステップの場を選ぶ。	・教師が補助したり，グループで補助したりする。 ・課題の易しい場で練習する。

≪第3学年　保健　評価の計画≫（4時間扱い）

時間	主な学習活動	学習活動における具体の評価規準（B：概ね満足できる状況）A：十分満足と判断できる状況		
		関心・意欲・態度	思考・判断	知識・理解
1	ア　健康な生活とわたし 心と体の健康が，生活のしかたや周囲の環境とかかわっていることを考え，話し合う。	自分の生活経験から，心と体が健康な時を振り返る活動に（A：進んで）取り組もうとしている。	心と体が健康な様子を（A：健康でない様子との違いを比べながら）見つけている。	心と体の健康が生活の仕方や周囲の環境とかかわっていることについて，（A:具体例を挙げて）言ったり書き出したりしている。
2	イ　1日の生活の仕方 食事，運動，休養・睡眠等の生活の仕方と健康は，つながりがあることを考え，話し合う。 自分の生活を振り返る。	起床・就寝の時刻，食事の時間，外遊びの時間など，1日の生活の仕方をふり返り，一日の生活の仕方を改善しようとする活動に（A：進んで）取り組もうとしている。	自分の一日の生活の仕方について，改善点やよい点を（A：）見つけている。	健康は生活のしかたと深くかかわっており，特に，食事，運動，休養・睡眠が大切であることについて，（A:具体例を挙げて）言ったり書き出したりしている。
3	イ　1日の生活の仕方 体を清潔にしなければならない理由や，体を清潔に保つ方法を考える。	（A：進んで）体を清潔に保つ取り組みについて，自分の生活を振り返る活動に（A：進んで）取り組もうとしている。	身のまわりを清潔にすることについて，自分自身のよい点や問題点を見つけている。（A：分類している。）	毎日を健康に過ごすためには，体を清潔に保つ生活習慣が大切であることについて，（A:具体例を挙げて）言ったり書き出したりしている。
4	ウ　身の回りの環境 部屋の明るさやきれいな空気とのかかわりを考え，自分の生活を振り返る。 健康を守るために，学校で行われている活動に気付く。	自分たちの教室内の空気や明るさについて，調べる活動に（A：進んで）取り組もうとしている。 健康と自分の生活についての話合いに（A：進んで）参加しようとしている。	きれいな空気やちょうどよい明るさを保つための方法を見つけている。（A：分類している。） 学校の中で，健康を守るための活動がどのように行われているか見つけている。（A：分類している。）	室内の空気や明るさと健康が関連していることについて，（A:具体例を挙げて）言ったり書き出したりしている。 健康を守るために，いろいろな工夫や活動が行われていることについて，（A:具体例を挙げて）言ったり書き出したりしている。
努力を要する状況に対する指導の手だて		友達の意見を参考にしたり，自分の生活体験から調子の良かった時や悪かった時を思い出したりできるような話合いの場を設定し支援する。	自分の生活場面を想起し，健康的な生活の仕方の絵等と照らし合わせながら，具体的にどのように生活したら良いのか考えられるように援助する。	友達の発表や今までの生活経験，板書や掲示の工夫から，健康な生活のために大切なことについて，理解できるようにする。

※「関心・意欲・態度」については，単元全体を通して評価する。「思考・判断」と「知識・理解」については，一単位時間で行う評価規準を太枠で示した。

平成２２年度研究成果報告書≪教育課程≫

ふりがな 学校名	こうかしりつきぶかわしょうがっこう 甲賀市立貴生川小学校

校 長 名：八里 良子

所 在 地：滋賀県甲賀市水口町三大寺437番地

電話番号： 0748-62-2024

新学習指導要領の趣旨を具体化するための 指導方法等の工夫改善に関する研究	
研究対象教科等	体　育

≪研究主題≫

仲間とともに健康で安全な生活を目指し
運動の楽しさに触れる授業づくり
～体育科における有効な
言語活動の在り方～

【研究の要点】

本研究では，体育科における言語活動の充実を通して，

①学習内容の定着に向けた指導方法の工夫
②身に付けた学習内容を活用する体育の授業づくり
③実践力の基礎をはぐくむ保健学習

について，運動領域では，陸上運動のハードル走系を中心に，保健領域では，５年「けがの防止」の単元を対象にして研究に取り組んだ。

①では，2学年をひとつのまとまりと捉えて大単元を構成し，授業実践を通じて，それぞれの学年に応じた指導方法や体育科における言語活動について検証を重ねた。②では，学習内容を確実に身に付け，学習したことを子どもが次の学習に生かすことができるようになるための教師の働きかけと，体育科における有効な言語活動の在り方について検証した。③では，実践的な理解を通して，思考力・判断力をはぐくむ保健学習の効果的な指導方法の工夫に取り組んだ。

Ⅰ　研究指定校の概要

１　学校・地域の特色及び実態

本校では，運動に親しむ態度の育成と体力の向上を目指して，週２回朝のスポーツタイム（１０分間）において，様々な運動や運動遊びを行っている。また，教科体育の充実のため，昨年度から，本事業の指定を受けて校内研究に取り組み，公開授業による研究を進めてきた。しかし，新体力テストの結果は，やや上昇したものの長座体前屈や握力など、県平均を下回る項目もあった。また，社会体育活動でスポーツをしている子どもとそうでない子どもとの運動に対する意欲や技能の差も依然大きい傾向にある。

２　学校の概要（平成22年4月5日現在）

（小学校の例）※中学校はこれを参考に第３学年までとする。

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特別支援学級	計
学級数	5	4	3	3	3	3	4	25
児童数	147	115	97	88	92	79	21	639

教員数　　33名

Ⅱ　研究の内容及び成果等

１　研究主題等

(1) 研究主題

仲間とともに健康で安全な生活を目指し
運動の楽しさに触れる授業づくり
～体育科における有効な
言語活動の在り方～

(2) 研究主題設定の理由

本校の体力低下や二極化傾向などの課題を解決するためには，健康・安全に関する基礎的な内容について思考力を育み，運動の特性に十分に触れる授業づくりを通して，適切な運動経験を保障することが大切だと考えた。

また，仲間とのかかわりを重視する体育科においては，教師と子ども，また子ども同士の双方向の有効な言語活動は欠かせないものであり，特に体を動かすことが中心である運動領域では，その特性に触れる授業づくりを行う上で，言語活動の果たす役割は重要であると考えた。

そこで，本研究を通して，以下のような研

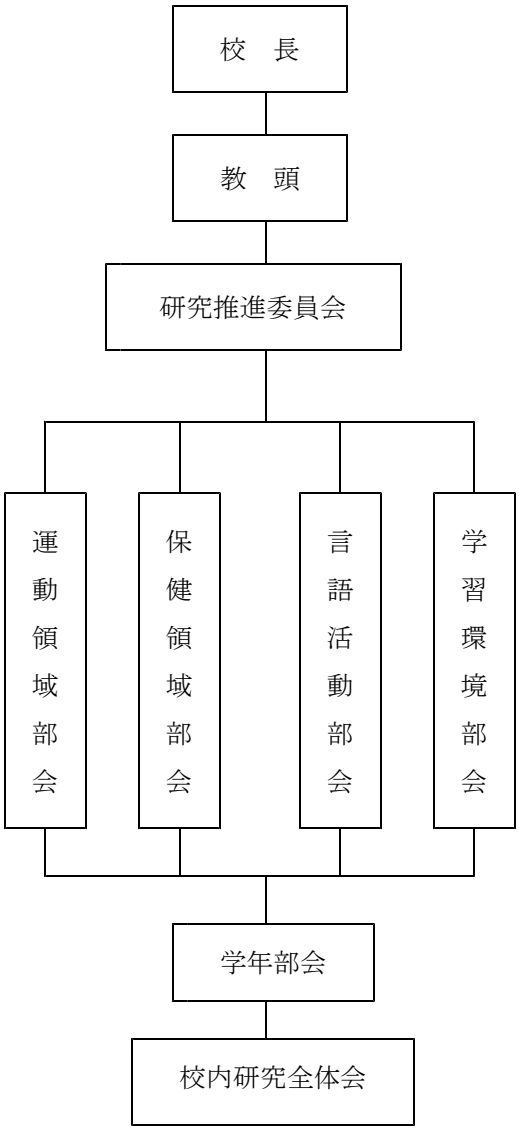
究実践に取り組んできた。

○子どもの発達段階に応じた学習内容の明確化と運動の楽しさに触れ，学習内容の定着を図るための系統性を重視した授業づくりについての工夫改善の研究

○学習内容を身に付け，次の学習に生かすことができるようにするための教師の働きかけと，体育科における有効な言語活動の在り方についての工夫改善の研究

○〈保健領域〉実践力の基礎を培う観点から，思考力・判断力を育成するための，知識を習得・活用する授業の工夫改善の研究

(3) 取組体制



(4) ２年間の主な取組

平成21年度	〔研究授業〕 ５年「陸上運動　ハードル走」　３年「走の運動」 支援学級「楽しく体を動かそう」　５年「けがの防止」 ６年「陸上運動　ハードル走」 ２年「走・跳の運動遊び」１年「走・跳の運動遊び」 指導：柴田俊和　びわこ成蹊スポーツ大学准教授 谷川尚己　びわこ成蹊スポーツ大学准教授 〔指定校訪問　公開授業〕 ４年「走・跳の運動」　５年「けがの防止」 ６年「陸上運動　ハードル走」
平成22年度	〔研究授業〕 支援学級「楽しく体を動かそう」 ４年「走の運動」　６年「陸上運動　リレー」 指導：岩田　靖　信州大学教授 〔指定校訪問　公開授業〕 １年「走・跳の運動遊び」　４年「跳の運動」 ５年「けがの防止」 〔校内研修会〕指導講話：辻延浩　滋賀大学教授 〔研究発表会　研究授業及び公開授業〕 ２年「走・跳の運動遊び」　３年「跳の運動」 ５年「けがの防止」　６年「陸上運動ハードル走」

２　研究内容及び具体的な研究活動

(1) 研究の重点

①　学習内容の定着に向けた指導方法の工夫

「陸上運動ハードル走系の系統性を踏まえた指導内容の明確化の実際」

②　身に付けた学習内容を活用する体育の授業づくり

「確実に学習内容を身に付けることができるようにするための教師の働きかけ」

「運動領域における有効な言語活動」

③　実践力の基礎をはぐくむ保健学習

「実践的な理解を通しての取組」

(2) 具体的な取組

①　系統性を踏まえた指導内容の明確化の実際

体育科の目標に迫り，確実に学習内容を定

着させるためには，各領域における学習内容の系統性と運動の特性を踏まえ，１時間ごとの内容を明確にする必要がある。特に小学校では，６年間同じ教師が指導することはあまりなく，前の学年の指導を受け継ぎ，次の学年につなぐことを大切にしたいと考えた。

そこで，系統性を踏まえた学習内容の明確化に取り組むため，運動領域の陸上運動「ハードル走」を中心にして研究を進めた。

まず，学習指導要領をもとに内容の明確化を図るために，単元構造図を作成した。１・２年「走・跳の運動遊び」，３・４年「走・跳の運動」，５・６年「陸上運動　ハードル走」という２学年の内容をひとつのまとまりとして捉えて大単元を組み，学習指導要領を基に単元・展開・評価の関わりを構造化した図を作成して,その系統性について整理した。例えば,ハードル走の技能に関する内容では,「第１ハードルまでの走り方」「振り上げ足」「前傾姿勢」「インターバルの走り方」など様々なポイントがあるが，学年の発達段階に応じて「インターバルのリズム」をハードル走につながる中核の技能と捉え，次のように整理してみた。

低学年：いろいろな方向に走ったり障害物を走り越えたりすること

⇩

中学年：小型ハードルを調子よく走り越えること

⇩

高学年：ハードルをリズミカルに走り越えること

また，単元構造図には「技能」のみならず「態度」「思考・判断」の内容も位置付け，単元をとおしてバランスよく身に付くように学習内容の明確化を図った。

②　身に付けた学習内容を活用する体育の授業づくり

ア　教師の働きかけ

学習内容を確実に身に付け，学習したことを子どもが次の学習に生かせるようにするためには，様々な指導方法の工夫に加え，教師の働きかけが重要であると考え，次のことについて研究を深めた。

（ア）子どもの思い・実態の把握の例

ハードル走の系統性を踏まえて，低・中学年で走・跳の運動（遊び）を指導する際，ハードル走の動きだけをとりだして学習するのでは，発達段階の実態からは無理があり，むしろ動きを広げることにより，バランスよくいろいろな動きを身に付けることが大切であると考えた。そこで,単元を構成するときに,実態を踏まえて，登場人物になりきることができるストーリー性のある単元を仕組み，楽しく活動しながら動きを広めることができるようにした。ＴＶゲームを模倣して，５つの場面を冒険する設定の単元や甲賀市が忍者発祥の地域であることから，忍者がお城を守るという設定で単元を構成した。

（イ）教材・教具・場の工夫

中学年では，できる動きを広げていきながら，その動きがよりよい動きになるように考える学習も重要になる。しかし，運動している中での「動き」は，形に残らず，よい動きを考えたり，次の活動に生かしたりするためには，イメージが持てるように教材等を工夫する必要がある。そのため，映像を生かすＩＣＴの活用に取り組んだ。４年の小型ハードル走では，高学年の試走や陸上選手の映像を見て，ハードル走の調子よく走り越す動きの共通点を考えた。リズムが一定であることに気づき，めざす動きが明確になった。

また，高学年では，動きをより高めるための課題解決的な学習を設定した。その際，ハードル走に対しての子どもの思いの中で「こけると痛くて怖い。」「ハードルに当たったら痛くて嫌だ。」というものがあった。また,「リズミカルな走り越し」をめざすとき，従来の

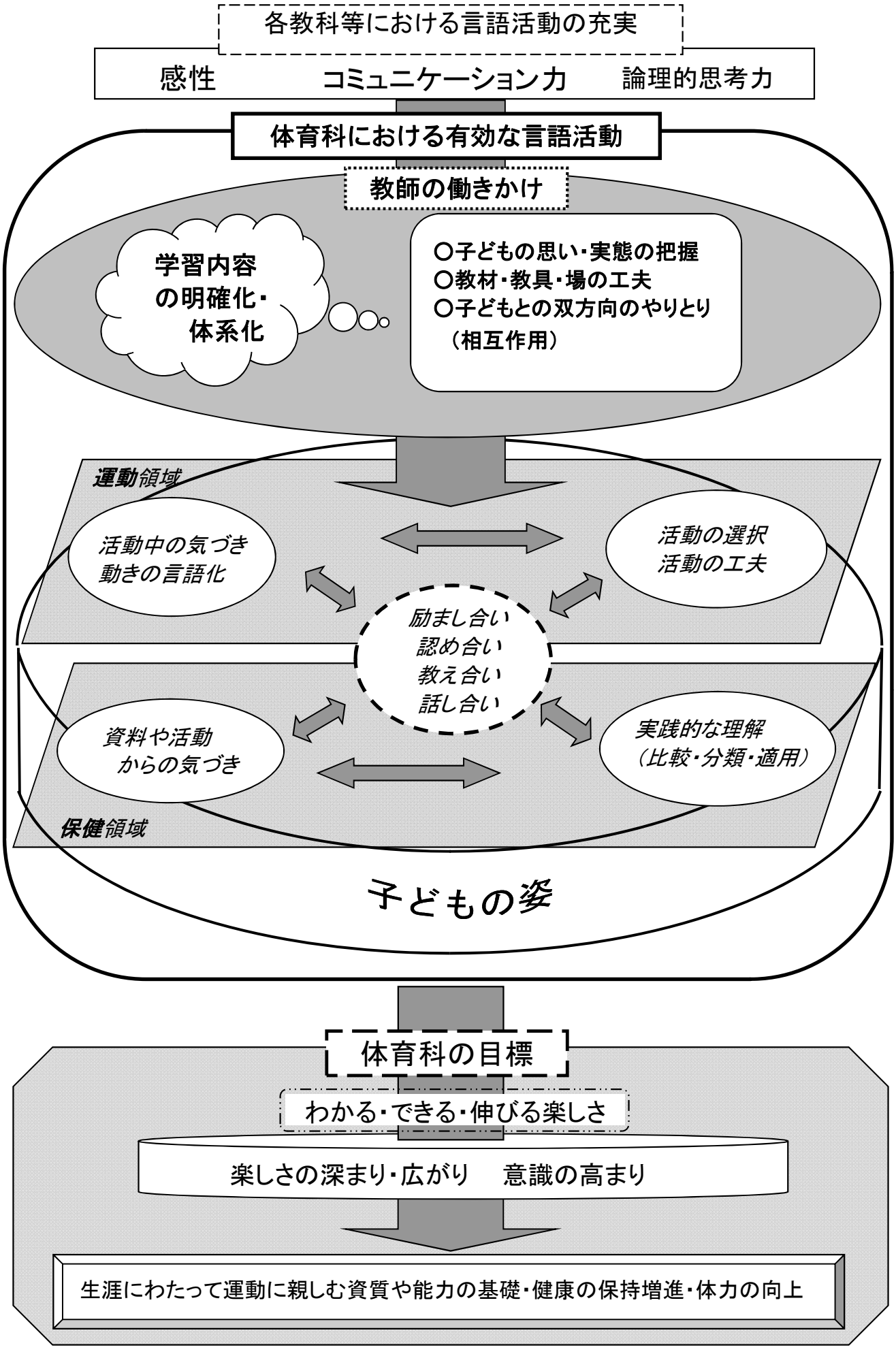


図　体育科における有効な言語活動

ハードルバーでは１台目にひっかかるとスピードが落ちて，それ以降リズミカルな走り越しが難しくなる。そこで，教具の工夫として，ハードルのバーをウレタン製にし，その真ん中を切り取ったものに代えた。子どもたちは，怖がらずにスピードを出してハードルに向かい，当たっても転ばずにリズミカルな走り越しができるようになった。

イ　運動領域における有効な言語活動を引き出す手だて

学習したことを振り返り，仲間と関わり合いながら学習課題の解決にむけ言語活動を充実させていくことは，理解を深めながらできる喜びを味わわせる授業づくりにつながり，学習内容が確実に定着すると考え，次のような手立てを考えた。

（ア）活動中の気づき・動きの言語化

〇ハードル走の学習

・インターバルのリズムの音声化

「ト・トン・トン・トン」

ハードル走において，学習内容である「リズミカルな走り越し」の動きをイメージすることは，抽象的であり理解することが難しい場合が多い。そこで，自分に合ったインターバルを，着地から数えて４歩になるようにして，それを「ト・トン・トン・トン」という音声言語に置き換えて意識させることにより自分のめざす「リズミカルな走り越し」や友だちと教え合うときにアドバイスする内容を明確にすることができるようになった。

（イ）活動の選択・活動の工夫

〇足の振り下ろし方を確かめる牛乳パック

６年ハードル走の学習において，ハードルを走り越す動きの中で，振り上げた足を振り下ろすときには，自然にゆっくり下ろしていては，次のインターバルでのリズミカルな動きにつながらないことがあった。そこで，「素早く足を振り下ろそう」という課題に対して学習することになった。しかし，「素早く」という動きが抽象的であり，動きを自分で確かめたり，グループの友だちに教えてもらったりすることが難しくなることから，牛乳の紙パックを振り下ろす位置に置き，またぎ越す練習をして，その音の大きさや牛乳パックのつぶれ方を観察した。抽象的な動きを具体的な物で見たり，聞いたりすることで，思考しやすくなり，教え合いのポイントも焦点化させることができた。

③　実践力の基礎を培う保健学習

ア　実践的な理解を通して

研究のはじめは，『実践的な理解』ということを，「身近な生活の中の活動において，実際に体験したことを具体的に改善すること」と捉えていた。学校の中で起こるけがの原因を考え，安全な生活に改善する行動をとることと考えた。しかし，生活上の課題について改善し，日常生活で具体的に実践することは保健指導であり，保健学習は必ずしもすぐに実践につながらなくてもよいとの指摘を受けた。保健学習では，将来，遭遇する課題等に対処できるために基本となる内容を学ぶことが大切である。

「実践的な理解」とは，具体的な事例を学習内容と比較したり，分類したり，適用させたりして，実践と学習内容を思考の中で行ったり来たりさせることとして整理し，研究に取り組んだ。

イ　保健領域における有効な言語活動

保健領域では，有効な言語活動を次のように捉え，５年「けがの防止」の単元の研究に取り組んだ。

（ア）資料や活動からの気づき
（イ）実践的な理解（比較・分類・適用）
（ウ）励まし合い・認め合い・教え合い・話し合い

ウ　保健領域の指導の実際

～５年　けがの防止～

本単元における学習内容を明確にするために，単元構造図を作成した。

この過程では，学習指導要領と単元の流れを明確にしていき，学習する内容もはっきりさせることができた。

次に，けがの発生要因や防止の方法について理解できるようにするために，次のような指導法の工夫を試みた。

（ア）資料の提示の工夫

○自校のけがの場所や発生回数のデータ
○具体的な場所（校内・校区内）の写真
○プロジェクターや視聴覚機器の活用
○養護教諭との連携(資料の提供)

（イ）学習活動の工夫

○予想とデータの違いからの課題設定
○公園の絵から危険を予測する活動
○具体的なけがの原因を学習内容（人・環境・行動）の観点をもとにグループで分類する活動（ＫＪ法）

(3) 考察

○ハードル走についての系統性を検討して単元構造図を作成し，児童の実態から修正していくことは，内容がより明確化されるとともに，次の指導に生かされ，子どもたちの動きが高まっていった。
○運動領域では，低・中・高学年の２学年をひとつの大きな単元としてとらえることで次の学年の指導内容をより意識した単元を構成することができた。
○学習内容が明確化され，そのポイントを踏まえた教師の子どもたちへの言葉がけや働きかけは，言語活動の充実につながり，子どもたちを目指す姿へ導くための大切な要素であることがわかった。
○学習課題の解決に向け，学習情報を共有できるような環境を整えたり，活動中の気づきを交流できるように言語化して学習のキーワードにしたりすることなどは，子どもの言語活動を活発にし，理解を深めながらできる喜びを味わわせる有効な手立てとなった。
○保健領域では，効果的な「資料や活動からの気づき」となる資料提示等を工夫し，「実践的な理解（比較・分類・適用)」ができる活動（ＫＪ法など）を積極的に取り入れ，「励まし合い・認め合い・教え合い・話し合い」等の子ども同士がコミュニケーションを図る言語活動を充実させることが，実践力の基礎を培う保健学習につながった。

３　研究の成果と課題

(1) 成果

運動領域では,学習内容の明確化とともに,学習課題を言語化したり，動きのポイントに気付きやすいように教材・教具を工夫したりするなど言語活動を充実させる働きかけをすることは，技能に対する子どもの理解を深めるだけでなく，子どもが納得，実感できた言葉などわかりやすい言葉で学習課題や動きのポイントを整理し，交流し合うことで,「個から集団，集団から個」へとつながりをつくりながら，課題解決していく姿が見られるようになった。

このように，言語活動を充実させていくことは，子ども自身が自分の成長を実感していくために欠かせないものであることを授業実践を通じて検証することができた。

保健領域では，学習した内容と，同じような場面に遭遇したときに，どう考え行動するかという思考力・判断力の育成が実践力の基礎をはぐくむことにつながり，そのために言語活動が重要であり，その方策を授業実践により検証できた。

(2)課題

「陸上運動」「けがの防止」を中心に研究を進めてきたが，研究の成果を他の領域，単元でも生かせるように，今後も研鑽を積んでいきたい。

また，指導内容を明確にし，授業構成やマネジメントを考える上で，誰もが手軽に準備し授業実践できるように，教師の手立ての効率化を図り，工夫することが，普段からの授業改善につながると考える。